

10年間の推移から考える  
地域づくりの方策  
【宮城県登米市】

2018.06.13

特定非営利活動法人 故郷まちづくりナイン・タウン  
事務局長 伊藤寿郎  
<http://nine-tow.org>

地域課題を整理するために【働き方の推移をみます】

①就業者数の変化（単位：人）

	平成17年度	平成27年度	増減	比率（%）
第一次産業	7,335	5,212	-2,123	-28.9
第二次産業	14,178	12,158	-2,020	-14.2
第三次産業	22,001	22,129	127	0.6
分類不能の産業	84	2,466	2,382	2,835.7
計	43,598	41,964	-1,634	-3.7
人口	89,316	81,959	-7,357	-8.2
世帯数	25,048	26,196	1,148	4.6

②産業別総生産の変化（単位：億円）

	平成17年度	平成27年度	増減	比率（%）
第一次産業	167	96	-71	-42.5
第二次産業	632	722	90	14.2
第三次産業	1,683	1,690	7	0.4
計	2,482	2,508	26	1.0

※出典：国勢調査

10年対比で、就業者は  
1,634人減(-3.5%)でも  
総生産は26億円増(+1%)!

すごい!

給料  
上がったかも?

一人当たり労働生産性  
が高まっている!!

しかし、

登米市の賃金・俸給

平成16年度 1,122億円

平成26年度 949億円

△ **173億円**

15%の減少!

なぜ?

# 【働き方の変化】③就労者数1,634人の減少は、世代別では一律ではない。

登米市 【就労者数の年代別比較:10年間】

年代	平成17年		世代別 構成比率 (%)	平成27年		世代別 構成比率 (%)	2,475人 35%減	
15-19	590	1.35	1.35	453	1.04	1.04	-137	76.78
20-24	3,042	6.98	32.70	1,854	4.25	28.79	-1,188	60.95
25-29	4,014	9.21		2,727	6.25		-1,287	67.94
30-34	3,764	8.63		3,694	8.47		-70	98.14
35-39	3,436	7.88		4,276	9.81		840	124.45
40-44	4,379	10.04	48.78	3,988	9.15	39.31	-391	91.07
45-49	5,544	12.72		3,578	8.21		-1,966	64.54
50-54	6,251	14.34		4,366	10.01		-1,885	69.84
55-59	5,095	11.69		5,207	11.94		112	102.20
<b>小計</b>	<b>36,115</b>	<b>82.84</b>		<b>30,143</b>	<b>69.14</b>		<b>-5,972</b>	<b>13.70</b>
60-64	2,565	5.88	16.59	5,082	11.66	25.44	2,517	198.13
65-69	2,260	5.18		3,486	8.00		1,226	154.25
70-74	1,608	3.69		1,487	3.41		-121	92.48
75-79	802	1.84		1,038	2.38		236	129.43
80-84	191	0.44	0.57	537	1.23	1.67	346	281.15
85-	57	0.13		191	0.44		134	335.09
<b>小計</b>	<b>7,483</b>	<b>17.16</b>			<b>11,821</b>		<b>27.11</b>	
<b>計</b>	<b>43,598</b>	<b>100.00</b>		<b>41,964</b>	<b>96.25</b>		<b>-1,634</b>	

※出典は国勢調査による。

《課題の整理》数の変化が「どのような質の変化」を生み出しているのかを考えることで課題が鮮明になる。(登米市の10年間の推移から)

## ①労働力が給与所得者に移動した。

第1次産業の減少=2,123人

## ②正規雇用からパート雇用に変化した。

60歳以上就業者の全員=4,338人(60歳未満の主婦、若年層全般も増加、推計値として採用)

## ③就業者が高齢世代に移動した。

60歳未満5,972人減少 60歳以上4,338人増加

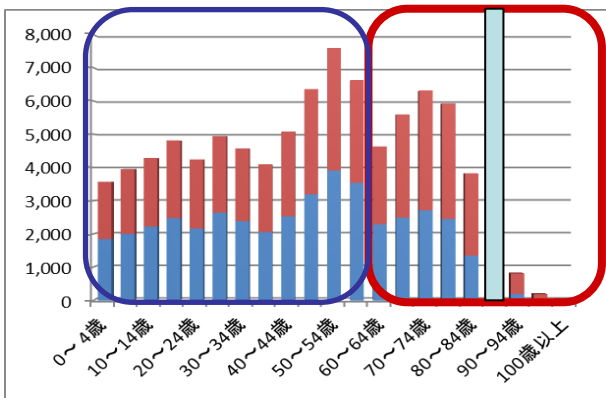
## ④20歳代の就業者が大幅減少した。

2,475人減少、減少率35%

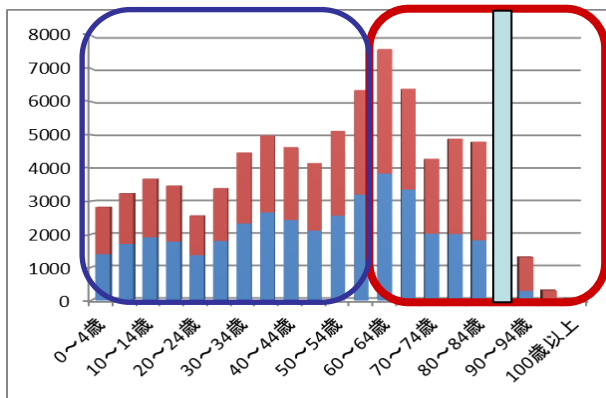
## ⑤近い将来高齢者も激減する。

2030年までに約20,000人、2040年までに約13,400人、計33,400人が減少する。

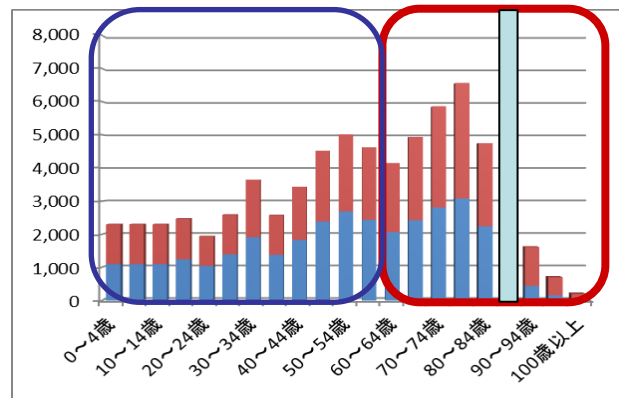
### 2005年人口



### 2015年人口



### 2030年人口(予測)

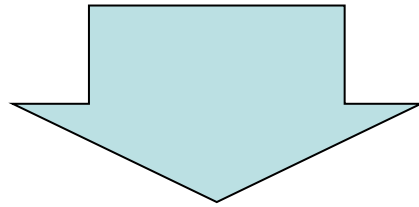


## 《状況の変化が将来に与えるメリットとデメリット》

変化の状況	データ根拠	メリット	デメリット
①労働力が給与所得者に移動した。	第1次産業－2,123人 第3次産業＋2,509人	現金収入者が増加。 通年の収入で計画性が高くなった。	1次産業が仕事の現場でなくなってきた。 大規模化、集約化が限界にきている。
②正規雇用からパート雇用に変化した。	60歳以上新規就業者 4,338人(他にも増加分を推計した)	年金受給までの収入安定。低賃金で雇用の確保	地域参加年齢が5歳後退。給与額の総額減少
③就業者が高齢世代に移動した。	60歳未満5,972人減少 60歳以上4,338人増加	再雇用による熟練者の技能活用効果 年金未収期間の収入確保	地域参加年齢が後退。 60歳以前者の給与、採用、昇進等に影響
④20歳代の就業者が大幅減少した。	2,475人減少。 減少率35%	全くなし	将来人材不足。技術、知識の伝承不足。 住民減少。
⑤近い将来高齢者も激減する。	2030年までに約2万人、 2040年までに約3万3千人が自然減で減少する。	高齢者ビジネスの需要が増加する。 資産移動が促進する。	拡大再生産型社会を担ってきた世代が短期間で減少。地域経営の維持が困難になる。

地域経営面からみた現状のまとめと課題

地域から所得と人材が  
失われて行く



**分担制の地域経営が  
できなくなる。**



# かつての地縁共同体(自治会・行政区など)

## ◆小さな経済・内部循環型

### ・地域経営は分担型

資金 (会費、負担金、ご祝儀)

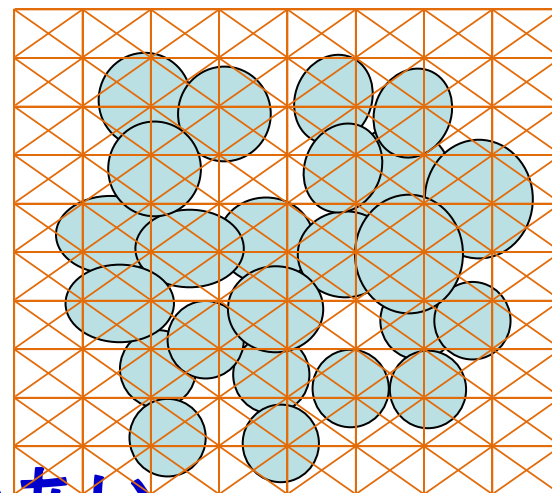
労働 (共同作業、自己工夫)

時間 (随時できる時、できる人)

### ・狭い中の多様な人脈 = 斜めのつきあい

・自己調達    ・格差が小さい    ・公私が近接

・物の交換    ・本物志向    ・拡大社会



## ◆地域への高い帰属意識の要因

・先祖から住み続けた土着性

・自営の1次・2次産業 = 地域、地縁の価値観優先。

・仕事は労働集約型・肉体労働

= 元気な若者が必要。

= 世代交代が早い。

# いまの地縁共同体(自治会・行政区など)

## ◆大きな経済・グローバル型

- ・地域経営は外注型

資金(補助金、寄付金)

労働(業者委託、依頼管理)

時間(定刻、時間が無い)

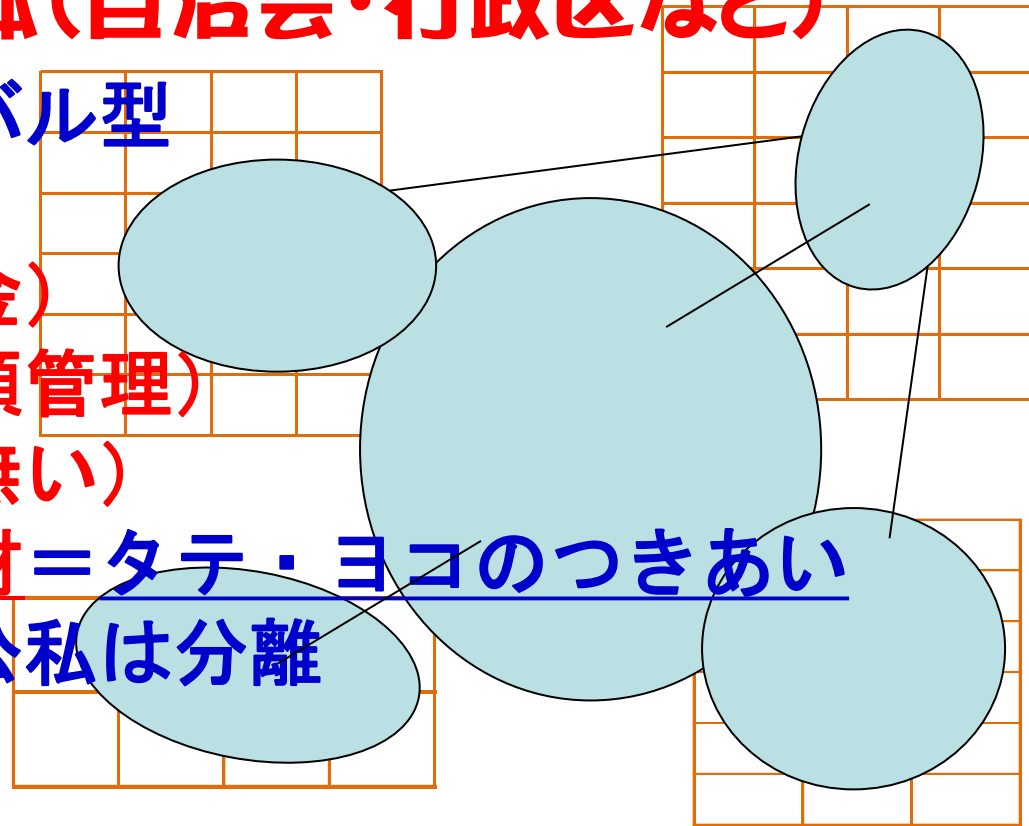
- ・広範囲には多様な人材=タテ・ヨコのつきあい

- ・他者依存・代用品・公私は分離

- ・縮小社会

## ◆地域への低い帰属意識の要因

- ・核家族化、転居、移住による市内人口移動
- ・給与所得者が全体の87%=会社・個人の価値観優先。
- ・農地や空き地の賃貸=不動産所得(業)
  - ※会社員経験の元気な高齢者が地域をけん引
  - ※交代する隙間がない。



## 【地域運営最大の課題の解決策】

課題：分担制の地域経営ができなくなる。

解決策

地域にお金と人を生み出して  
生産型の地域経営に転換する

**持続可能な地域経営のための  
内部循環への挑戦!**

(具体例は当法人WEBサイト [www.nine-town.org](http://www.nine-town.org))

# まとめ

縮小社会における地域再生の指針

【資源はなにか？】視点を変えてみる。

見える化ができる = 活用できる。

【再生方法】

共感する仲間を募る(少数)

= 小さな経済がつながる。まわる。生み出す。

【休眠資源再生3つのメリット】

- ・過去の投資資本が生かせる。
- ・歴史や伝統が残せる。
- ・これから大量の資源が生まれてくる。

# まとめ

【休眠資源再生による従事者、事業者のメリット】

・経済が生まれる

売上、改修費、水道光熱費、燃料費、飲食費……

【住民のメリット】

・小資本で持続可能性が高まる。

参加しやすくなり、地域に安全が戻り、安心できる。

【行政のメリット】

・各種税金が発生する・評価額があがる。

固定資産税・事業税・所得税……

地域の価値が高まり評価があがる。

【地域のプライドが復活する】

## まとめ

取り合いの競争社会から  
新しい価値を創り出す  
**創生社会**への転換により  
持続可能な地域経営に取り組む。

「正しい民間プロテューサー」による  
「テーマ解決型機能体」と  
それを支える仕組みが必要。

わたしたちは、小さなエリアでも持続可能な開発を担い、質の高い再生を進め、「若者が戻りたくなる」「暮らしたくなる」まちをつくることに挑戦します。

ありがとうございました。

特定非営利活動法人 故郷まちづくりナイン・タウン